

この町は あなたが住む町 つくる町 神川町議会

# かみかわ町議会だより



「此処、鬱蒼<sup>うっそう</sup>とした鎮守様、無病息災、殖産振興」四軒在家 日枝神社  
(撮影者「フォーカス友の会」奈良洋太郎さん)

- 平成22年度神川町一般会計補正予算（第1号）の補正予算を可決
- 本庄地域定住自立圏の形成に関する協定の締結を可決
- 副町長の選任の同意

第 **19** 号

平成22年9月1日発行

編集 神川町議会運営委員会  
発行 埼玉県児玉郡神川町議会

〒367-0292 児玉郡神川町大字植竹909  
☎0495(77)0707 <http://www.town.kamikawa.saitama.jp>

# 定例会のあらまし

平成22年第3回神川町議会定例会は6月10日から18日までの9日間の会期で開かれ、町政に対する一般質問が行われたほか、町長から提案された平成22年度神川町一般会計補正予算(第1号)、神川町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正、本庄地域定住自立圏の形成に関する協定の締結について、副町長の選任につき同意を求めることについて、などで12議案、報告3件、陳情1件、意見書1件併せて17件の案件が審議されました。

## 町政に対する一般質問

一般質問は、6月10日に行われ、4名の議員が町長をはじめ町当局の考えを質問しました。  
概要は、次のとおりです。



廣川 学 議員

## 中学生の受験指導について

定期テスト、実力テストの結果に対する対策については、生徒たちの学力向上を考えて対応するのが正しい対応だと考えますが、昨年度の神川中での事例ですが、2学年の夏休み明けテストで、英語の平均点が33.1点だったのですが、問題を見る限りでは、平均点は60点か

ら70点ぐらいになるような問題でした。そのデータが生徒に配られたのが去年のシルバークの前で、多分これでは連休中に課題が出るものだと思っていたのですが、特に変わったこともないということでした。

3年前になりますが、藤岡市の中学校では、1学年の英語のテストで平均点が40点台になったことがあり、そのときは授業のやり方を変え、課題も出しました。生徒の負担は増えたのですが、先生の本気度を感じました。しかも、藤岡市では、中学校2学年から入試対策として問題集を利用し課題を出したり、それを定期テストの問題として出題したりしています。生徒たちが入試で競うであろう、他の学校と余りにも差があるように思えます。藤岡市では、問題の解き方、あるいは覚えるべきものを覚えさせるという位置に立って授業等をされていますが、残念ながら神川町の一部の先生の発言には、次から問題を易しくすると言っていたと聞いています。これでは誰が考えても学力に差が出てしまうと思います。これは昨年度までのことなので、今年度からは、神川中も変わるものだと信じていますが、町長はこの現実をご存じでしょうか、考えを伺う。

次に、学習指導要領と入試対策についてですが、指導要領に従って授業が進められると聞いていますが、実際に入試問題は、それだけでは解くことができません。これは、授業されている先生方も認識されているようです。そこで、神川町でも藤岡市のように入試対策を授業の一部に入れたりするということはできないのか、伺う。

次に、受験指導の時期、内容についてですが、私が中学生のころは、業者テストを学校で実施していましたが、最近は夏休みごろにならないと受験指導が本格的に始まりません。結果的にそのころから受験勉強を始めても間に合わない、あるいは志望校をあきらめざるを得ないとなってしまうとよく聞きますが、なぜ具体的な受験指導が今は遅いのか、伺う。

## 答え 町長

極的に意見を述べていきたいと思います。なお、詳細につきましては、教育長より答弁させていただきます。

中学生の受験指導等については、教育部局に任せきりではなく、積

答え 教育長

定期テスト、実力テストの結果による対策ですが、中学校では、校内での定期テスト、中間テスト、学期末テスト、あるいは本庄見玉地区での中学校3年生を対象とした実力テストを年3回実施しています。さらに、神川中学校では校内実力テストを行っています。これらのテストは、生徒の各教科における習熟度の確認、日ごろの学習状況の点検、見直しを行い、進路指導の一層の充実、結果を通しての指導や学習カリキュラムの見直し等を行うことを目的としています。校内の学力テストは、分析結果を生徒、保護者、教師との3者面談において、個々の学習方法の改善に役立て、進路相談や進路指導の資料とし、さらに、郡市統一の学力テストの結果においては、個人票を本人に公表するなど、他の資料とともに学校における進路相談や進路指導のために活用しています。また、定期テストや実力テストの結果から考え、学力補充が必要な生徒には夏休み等の長期休業中における指導を行っています。今後も生徒の実態を把握すること、個々の生徒の学習や進路

指導と学習指導方法の改善に各テストが有効に活用されるように取り組んでいきたいと思えます。

次に、指導要領と入試傾向との違いについてですが、平成23年度埼玉県公立高等学校入学選抜における学力検査問題の出題の基本方針等によると、1、中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。2、基礎的な知識及び技能を見る問題とともに、思考力、判断力、表現力等の能力を見る問題の出題に配慮する。3、各教科の目標に照らして、受験者の学力を十分に把握できるように、出題の内容、出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めよう配慮すると示されています。このようなことから、埼玉県の入学選抜学力検査問題については、学習指導要領に基づいた基礎的な問題とともに、表現力を見る問題が中心になるかと思えます。今後も生徒の実態を考慮した指導を行い、平成23年度埼玉県公立高等学校入学選抜においても力が発揮できるように、指導に取り組んでいきたいと思えます。

次に、受験指導の時期、内容についてですが、学校では日々の授業や家庭との連携や各学校行事等を通じて基礎基本を学ばせ、定着

させるとともに、発展的な学習を行っていただきます。また、考える力、判断する力、発表する力を身につけるための指導を行い、さらに、入学選抜学力検査の過去の問題や類似問題について、各教科の授業の中で各教科担任ごとに考え、

中学校の授業参観について

授業参観の科目は、どのように決められているのでしょうか。また、目的は何なのでしょう。次に学校公開についてですが、いつあるのか、目的は何なのか、どのように行われているのか、伺う。

答え 教育長

目的については、家庭や地域との連携を深め協力体制を築くためです。授業参観はそのひとつの方法で、生徒の学校での様子を保護者の皆様と共通理解を持つ機会であると考えています。また、教職員の指導方法等についても参観していただき、学級懇談会等を通じて授業について考えることを目的としています。科目については、担任の担当教科以外の授業を参観できる機会を計画することも

取り入れ、各単元の終わりに問題を取り上げて指導し、意義づけを図っています。また、学校ごとに長期休業中や2学期からの放課後等に入試対策補修事業を行う等の指導を行っています。

必要であると考えています。

次に、学校公開については、町民の皆様と学校との信頼関係構築のため、多くの学校で期間を設け、保護者や地域の方々へ生徒たちの様子や学校の教育活動を見つめていただくため学校公開日が設定されています。特に11月1日の彩の国教育の日から1週間彩の国教育週間においては、教育に関する県民の関心と理解を一層深めることをねらいとした取り組みが各学校で実施されています。

なお、神川中学校では年4回、神泉中学校でも3回の公開の週を設けています。

# 結婚相談について

毎月第1水曜日に行われているようですが、現在の利用状況、成果について伺う。

次に、イベントプランについてですが、町の現状として、未婚の方々が多く、その方々が結婚されれば町に定住し、子供を産んで育てただけで考えると考えています。佐賀県伊万里市には、婚活応援課という課までつくり、結婚の応援をしています。神川町としては、どのような応援イベントを考えているのか伺う。

## 答え 町長

神川町社会福祉協議会へ委託し相談日は毎月第1水曜日に、この町の郷相談室で実施し、相談員は民生委員さんなどが相談に応じています。希望者は写真、独身証明書などを提出していただき登録しています。本庄市、上里町の社会福祉協議会とも交流を行っていますので、お互いに登録情報の交換を行い、その中で気に入った方とお見合いを実施しています。実際に相談に来られる方は少なく、結婚を希望し登録されている方は、神川町で男性6名、女性1名で、登録者が増えないのが現状です。3市町での登録者は、男性45名、女性16名となっております。い

ず女性16名の登録者が少ない状況です。この中で実際にお見合いまで発展したケースは、平成21年度は1件です。今後は、現在の相談事業に加え、相談員の方に地域の中

で登録を希望する方の掘り起こしや世話役となつて登録を進めていただけるようお願いしているところです。まずは、登録者を増やすことが必要と考えていますので、広報やホームページでのPRを引き続き行い、地道な努力を続けていきたいと思っております。

次に、イベントプランについては、未婚の男女が参加しやすいイベントを企画し、出合いの場の提供をしていくことは必要と考えています。昨年3月に神川、美里、上里町の農業青年会議所主催による農家にお嫁さんにおいでのカッチフレーズで、神川町内の温泉施設を会場に、お見合いパーティーが開催され、五十数名の参加者があり2組のカップルが誕生しましたが、婚姻の運びとなったのは1組です。町でも町内施設を利用したイベントの企画など、若者の出会いを応援するため、相談員を支援する世話人会を設置することにより、多くの婚姻の機会を創ってまいりたいと思っております。



榊 徳男 議員

# 乳がん子宮がん子宮頸がんの取り組みについて

近年、これらのがんの発生率が非常に高くなり、中でも子宮頸がんは増大の一途となり、死亡率も非常に高く、大きな社会問題となっています。定期的に検診を受けることによって早期発見、早期治療ということが考えられますが、町の取り組み状況並びに予防ワクチンの接種について伺う。

## 答え 町長

町のがん検診は、毎年乳がん及び子宮頸がん検診を集団検診として実施しています。また、子宮頸がん検診は、郡市内医療機関による個別検診を行っており、乳がん検診につきましても、本年度から無料クーポン券の人を対象に個別検診が始まりました。子宮頸がんでは要精密検査の方には保健師が戸別訪問し、医療機関への受診勧奨を行っています。町の受診率は

乳がん検診が、16.2%、子宮頸がん検診は、13.6%となり、受診率は、毎年3%から5%の伸びを示しており、県内や郡市内と比

較すると高いものの、国が想定した50%には開きがあり、さらなる受診率向上に向けての啓発活動が重要であると考えています。子宮体がんにつきましては、国の指針では十分な安全管理のもとで、多様な検査を実施できる医療機関の受診を勧奨しています。

また、検診受診率向上への取り組みとして、町では国の補助金を活用し、子宮頸がん検診は20歳から40歳までの5歳刻みの方に、乳がん検診につきましても、40歳から60歳までの5歳刻みの方に無料クーポン券及び検診手帳を配布し、受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康意識の普及及び啓発を行っています。受診率

向上のための町独自の事業としては、神川町母子愛育会協力のもと、乳がん講演会及び研修会を開催しました。また、小中学校、幼稚園保護者へ、乳がん、子宮頸がん啓発資料の配布を行うとともに、検診時にも託児を行うなど、検診を受けやすい環境づくりに努めています。今後も創意工夫を重ね、受診率向上を目指してまいります。思っています。

次に、予防ワクチン接種の取り組みについてですが、がん予防のワクチンには子宮頸がんワクチンがあり、これは昨年12月に厚生労働省の認可を受け、既に一般医療機関での接種が開始されています。このワクチンは任意接種で、費用は1回1万5千円から2万円程度の負担で、半年以内に3回接種する必要があります。町としては、5月に担当課へ指示して検討に入っていますが、ワクチン接種による費用対効果や課題整理などを行い、検討してまいりたいと考えています。

### ふれあいハウスの設置について

神川町でも高齢化が進み、若い者と離れて暮らす1人暮らしのお年寄りも増え、近隣のお年寄りの方々が近くで集まり、顔を見せ合いながら対話のできる場所が求められています。特に、ひとり暮らしの方は、話し相手がなく、自身の気持ちも意見も聞いてもらえず、生活する意欲がなくなると言われています。こうしたお年寄りの方々が声をかけ合い、励まし合い、自然の形で集まることのできる場所が設置されることを求められています。町では、こうした現況を踏まえて、高齢化対策を考えなければならぬと思います。町長の考えを伺う。

### 答え 町長

町では高齢者の孤立防止や健康、生活状態を把握して、支援や相談により地域で安定した生活が送れるよう、一人住まいの高齢者の実態調査を実施したところ、平均寿命の延びや核家族化により高齢者

の孤立化が進んでいます。そこで、孤立している高齢者の方々には、集会所や公民館の活用がよいかと考えていますので、ふれあいサロンや井戸端会議などの事業を積極的に取り入れていただきますようお願いいたします。また、町では、総合計画や高齢者福祉計画などに基づく地域福祉事業を推進し、だれもが安心して自立生活を営むこと

ができるまちづくりに取り組んでいます。少子高齢化、過疎化により、法に基づく公的サービスの充実と地域における支え合いをいかに発展させるかが重要な課題となっています。そこで、行政、団体、NPO法人や住民の協働による連携を深め、地域全体で課題解決に

### 赤ちゃんの駅の設定について

多くの自治体で赤ちゃんの駅設置に向けて取り組みを進めています。神川町でも設置の方向で計画が進められていますが、子育て支援のひとつとして町内の公共施設に可能な限り設置していただきたいと思えます。町の考え、取り組みについて伺う。

### 答え 町長

授乳やおむつ交換ができる赤ちゃんの駅ですが、神川町におきましても、役場庁舎は本年度庁舎改修に合わせて、1階に設置したいと思えます。中央公民館、保健センターも現在空いている部屋を有効活用し、また、その他の施設につきましても、適宜場所を見つけて設置したいと考えています。埼玉県内には580カ所の赤ちゃんの駅がありますが、県の目標は、4,000カ所の開設を目指していますので、神川町におきまして

取り組む活動を積極的に進め、ふれあいサロンや井戸端会議などの集いの場所の確保や見守り活動、声かけ運動など、安心、安全な住民参加の地域づくり、まちづくりに取り組んでまいりたいと考えています。

も、子育てのしやすい環境づくりのため設置していきたいと思えます。



城峯公園内の授乳施設



町田 久議員

## 町内行政区の統合について

神川町23行政区の現状を見ますと、世帯数が49世帯の行政区から630世帯を数える行政区と大きな格差があります。今後の町政運営を進めていく上で、この行政区の統合を検討していくことが必要だと考えますが、町長の考えを伺う。

次に、区長会の時のことですが、町の連絡事項で、各行政区ごとに名前が記載されているのに、前組の行政区の名前がありませんでした。また、町の母子愛育会の研修会が保健センターで開かれ、そこで、各行政区の乳幼児に歯ブラシの配布の活動が説明され、研修会終了後にそれぞれの行政区の名簿が各代表に配布されましたが、前組の名簿が見当たらないとのこと、探してみたら、新里の行政区の名簿の中に「新里第4」と記載された名簿があったそうです。15年前に私が区長になったときにも、このような事例があり、町に改正を要請しましたが、いまだに現状は変わっていません。前組で生まれ育ち生活をしている一人として、大変に寂しい気持ちを感じました。こうした問題を私どもの区で協議、検討し、町長あてに事務事業の見直しと名称の統一について、区長名で要請書を提出した次第です。町長は、どのような考えか見解を伺う。

次に、神川町は24行政区と認識していましたが、実際には23行政区となつています。平成18年1月1日に施行された神川町区長等設置条例では、第1区長から始まり、最後は第24区長とありますが、よく見ると第19区がありません。条例は、渡瀬が18区、20区、21区と記載されています。なぜこのように条例が作成をされているのか疑問であり、また行政区の通称名も、前組と渡瀬の3行政区名が表記をされています。

せんが、他の各行政区は、通称名が明記されています。これらの不統一を整理、検討する中で、行政区の見直し、再編をすることについて、また、第19区がなぜないのか、町長の見解を伺う。

次に、機構改革による経費節減についてですが、行政区の統合を行うことにより、経費の節減が図れると存じます。経費の節減を図り、そこから生まれた予算を有効に活用することも必要ではないかと考えます。特に、ここ数年区長さんの活動は、町からのさまざまな依頼や要請、また地元の要望等、数多くの仕事が生まれており多忙となっております。このため、区長手当や区の活動助成金の増額を行えば、こうした経費節減というものが効果的になると存じますが、町長の考えを伺う。

## 答え 町長

町内には23の行政区があり、神川町区長等設置条例に基づいて区長さん23名を委嘱し、行政事務の連絡並びに区域住民の福祉増進に関する諸事務をお願いしています。

行政区の運営は、それぞれの行政区において、さまざまな取り組みや取り決めごとなど、長い年月の経緯、慣習等も含め地元根づいた住民自治であると考えています。区長の皆様には、大変ご苦労もあるかと思いますが、現在のところ行政区の見直しや再編を行うことは考えていません。

また、今般の間違いに対しては、おわび申し上げたいと思います。

今後は、このようなことがないように改善していきたいと思えます。

次に、行政区の19区については、以前渡瀬地区に西武化学工業の社宅があり、現在はありませんが、そこが19区の取り扱いになっていたと理解しています。

行政区の通称名の表記の件は、今後区長会とも相談しながら整理統一が図れるものであるならば、図っていききたいと考えています。

次に、機構改革による経費削減の件ですが、貴重なご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。

また、区長手当、区の活動費の件につきましては、予算の関係もありませんが、整理統合に合わせて考えていきたいと思えます。

## 町主催の開催行事(イベント)について

町の行事等が9月後半から10月にかけて集中し、保育所、幼稚園や小中学校の運動会、そして町民体育祭、コスモスマつり、冬桜まつりと連続して開催されています。スポーツや花の咲く季節とそれぞれのイベントの開催目的は、町民の相互理解を深める上で必要な行事と存じますが、余りにも一定の期間に開催されることで、本町に町民や関係者にとって望ましいものか考えるところであり、開催時期を検討することが必要と存じますが、町長の考えを伺う。

次に、行事の経費削減と統合についてですが、例えば、町民体育祭とコスモスマつりを一緒にした町の一大イベントとして開催を計画するなど、一定の時期に開催する計画もあると考えられます。また、行事に対する経費等の削減ですが、特に町民体育祭の食糧費、弁当についてはいろんな声を聞くことがあります。体育祭全体の経費の何パーセントになるかわかりませんが、検討する必要があると思います。町長の考えを伺う。

### 答え 町長

町の主催する大きなイベントは秋に集中しており、行政区役員をはじめ、参加団体等関係者の皆様にご協力いただいているのが現状です。具体的に申し上げますと、町民体育祭は、例年10月の体育の日の前日の日曜日、コスモスマつりにつきましては、開花時期の中で、町民体育祭、冬桜まつりと日程が重複しないような配慮で定められています。また、冬桜まつりにつきましては、咲き始めの時期に冬桜をPRすることを目的に、10月下旬に開催しています。今後事業仕分けも含め関係者の皆様のご意見を聞きながら検討していきます。



「コスモスマつり」より

たいと考えています。次に、事業の経費削減と統合についてですが、今後も関係者の意見を参考に経費の削減に努めてまいります。

## 宮崎県で発生した口蹄疫の対策について

宮崎県で発生した口蹄疫は、国を挙げて対策に取り組まれてきましたが、いまだに発生源や感染経路が明確になっていません。埼玉県においても、家畜防疫役員による、牛、豚を飼育する県内の農家に調査が行われています。こういう中で、町として口蹄疫の予防対策について、どのように取り組みを進めているのか、伺う。

次に、郡内及び近隣の市町では研修会等が実施されており、口蹄疫に対する対策が協議をされたと新聞で報道されていますが、神川町ではどのような対策が行われているのか、町としてどのような対策をとっていくのか、町長の考えを伺う。

### 答え 町長

5月27日現在、牛につきましては酪農肥育、繁殖と合わせて37戸、3,050頭、養豚は、一貫、繁殖と合わせて7戸、3,181頭が飼育されています。各飼養農家におきましては、日ごろから伝染予防のため消毒の徹底や畜舎内への関係者以外の立ち入り制限等、自主的に実施していただいているところですが、町としても、口蹄疫予防消毒液のつくり方や使用方法をはじめ、口蹄疫の発症にお

る各種の諸症状の写真を各飼養農家へ配布し、再度消毒の徹底や畜体の健康観察を依頼するとともに、予防啓発の巡回を実施しています。また、飼養農家44戸に口蹄疫予防対策として、炭酸ナトリウム20キロ入り2袋、これを葉液量に換算しますと1,000リットル相当分を配布し、継続的な予防対策を実施していただいているところです。

今後の対策につきましては、予断を許すことができませんので、引き続き各飼養農家に対して、消毒の徹底をお願いしていきます。



岸 優 議 員

総務省消防庁が進める  
消防広域化計画について

埼玉県消防広域化推進計画では、平成24年度末には広域化の実現となつていきます。児玉郡市は第5ブロックで13市町、人口は73万1,445人ですが、面積は1,521平方キロで、県の40%と広大な面積です。総務省の方針では、まず人口基準に合理化を進めるものです。総務省の農村地帯と山林を持つ地域での合理化は、総務省の基準に合わないことは明らかです。児玉郡市では、現行の7分署体制を堅持することを管理者会議で方針として出しており、神川町議会でも、昨年3月に7分署堅持の請願を採択しています。この合理化計画は変更されているのか継続中なのか、また、総務省の事業仕分けの中でも、これらを進めることが出ていますが、広域化計画について町長の考えを伺う。

答 え 町 長

埼玉県消防広域化推進計画では、県内36消防本部を7ブロックに組織の編成替えを行うもので、神川町は児玉郡市と秩父郡市、深谷市、熊谷市及び行田市を含めた13市町で構成する第5ブロックに属しています。事務レベルでは熊谷市が

幹事となり、消防の広域化に向けた準備を始めています。神川町としては、平成20年の児玉郡市広域市町村圏組合管理者会議で合意された現行の7署体制を堅持する考え方でいます。町民の安全を守る観点から、地域性や諸状況を踏まえて、議会をはじめ町民の皆さんの意見を聞き、消防の広域化に町の意見を反映できるように努力してまいります。

神川町内の広域消防分署



神川分署



神泉分署

町職員の新規採用について

神川町では、平成17年度から5年間は職員の新規採用を行わず、今年から、退職者の2分の1採用する方針ですが、21年度は定年退職者6名、希望退職者3名の計9名が退職されました。しかし、実際には2名しか採用していません。これを単純に計算すれば、本来であれば5名の採用ですが、今年度の不足分を加え、来年度採用する考えがあるのか、また、今後退職者の2分の1採用を何年続けるのか、今年度から26年度までの5年間計算しますと、36名が定年退職を迎えます。2分の1採用では、5年後には正規職員が16名減となり、機構改革を進めても対応できるものではありません。地方分権等により地方自治体の事務量が多岐にわたり増加し、こうした実情に対処するためにも、必要な正規職員を採用することであり、町長の見解を伺う。

次に、正規職員が減少した分、非常勤臨時職員が増加し、現在68名で、全職員の3分の1が臨時非常勤です。特に、臨時職員が多いのが女性の職場で、神川幼稚園、丹荘、青柳両保育所、給食センターであります。これらの職場では、働く者の半数以上が臨時非常勤で、次世代を担う大切な子供たちを育てる職場であり、そこで働く人たちの身を保障することが重要です。まさに女性職場にしわ寄せをされているのが現状であり、しかも低賃金です。給食センターでは、非常勤で



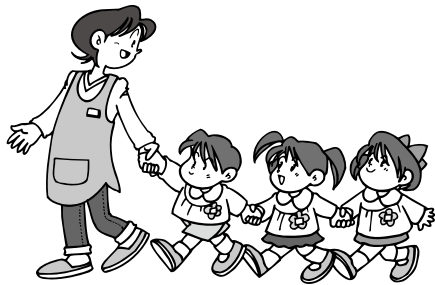
も年収150万円で、臨時は、単純計算しますと127万3千円です。幼稚園でも臨時の方の最高でも180万円の年収です。臨時職員であっても、年収を最低200万円以上に引き上げることであり、まさに町の臨時職員、ワーキングプアの典型であります。町長は、こういう職員の採用の仕方がいいと考えているのでしょうか、見解を伺う。

答え 町長

退職者の補充と新規採用についてですが、町では合併協議における町の方針や行政改革集中改革プランに基づいて、職員管理に努めてまいりました。その具体的な取り組みとしては、合併後5年間は、原則として退職者不補充、以降は退職者の2分の1の補充とする基本的な考え方に立ち、平成17年度から平成21年度は、新規職員の採用を見送るとともに、事務事業の見直し、合理的かつ機能的な組織体制及び人員配置を計画的に進めながら、職員数の削減を図り6月1日現在、町の正規職員は151名となっております。そのような状況の中で、平成22年度末には8名の職員が定年退職することから、現状を踏まえた計画的な職員採用に向け、本年度におきましても、職員採用試験を実施したいと考えています。今後も、各部門の職員数の分析はもとより、多様化する

事務事業の内容等を考慮しながら、適正な定員管理に努めてまいりたいと考えています。

続きまして、今後の方針についてですが、さきに申し上げたとおり、職員採用に係る基本的な考え方や住民の皆様のニーズ等を加味し、一層の事務事業の見直しや組織体制等の合理化を行いながら、必要に応じて柔軟な対応による職員採用を実施してまいりたいと考えています。23年度の採用につきましては、職員の異動等を、また行政のスリム化等の進行状況を見ながら検討中です。



法終了後8年経過した  
同和对策事業の廃止について

現在でも同和对策事業を続けることは、町民の中に一般町民と同和地区関係者という大きな壁を行政がつくっていることでもあります。同和事業を続けられ、同和地区出身者という差別固定化し、いつまでもたつても部落差別はなくなりません。同和事業の完全廃止によって、部落と一般という行政上の垣根、障害物を完全に取り払うことでもあります。まず、部落解放同盟など活動費補助金317万4千円は、差別が解消されている現在、廃止することは当然です。また、同和教育の延長である集会所事業などは、児童生徒間に新たな差別をつくるものであり、町はすべての同和事業を廃止し、憲法や法に基づく政策を進め、町民だれもが公平、平等に暮らせる町をつくることです。また、町では長野県の御代田町に視察に行かれたそうですが、御代田町は、同和事業を完全に廃止をした町であり、その感想等も含めて町長の考えを伺う。

答え 町長

2002年3月に特別措置法が終了した現在も、いまだ発生している差別事象や心理的差別の解消に向け、人権課題の中のひとつとして位置づけ、今後はより効率的で効果的な事業に改善する必要があります。と考えています。そして、人権の世紀と言われる21世紀にふさわしい、すべての人権が尊重され、差別のない明るいまちづくりを町民の皆様とともに目指していきたいと考えています。

集会所事業等につきましては、自主的な事業運営をお願いしたいという考え方を持っています。また、御代田町の視察についての感想ですが、御代田町の条件が神川町にすべてが合致するということではありません。神川町としても、参考にできる面は参考にし、今後の同和問題解決に向かっていきたいと思っています。

※一般質問の詳細な内容を確認したいときは、議会事務局にて会議録を閲覧することが出来ます。また、町ホームページでも閲覧出来ます。

## 議案審議の結果

六月定例会は、平成二十二年度神川町一般会計や特別会計の補正予算、条例改正、本庄地域定住自立圏の形成に関する協定の締結について、副町長の選任の同意、陳情、意見書などが審議され、それぞれ原案どおり可決されました。

## 人事関係

◎人権擁護委員候補者に四方田 勉氏を同意

任期満了となる人権擁護委員候補者に町長から同意案が提出され、満場一致で同意されました。

神川町大字上阿久原五五九番地  
昭和二十三年九月二十二日生

◎副町長に伊藤政雄氏を同意  
地方自治法第一六二条に基づき町長から同意案が提出され、満場一致で同意されました。

神川町大字関口二七番地三  
昭和二十五年一月十九日生



## 条例関係

◎神川町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部を改正する条例

福祉に関する法律及び地方公務員の育児休業等に関する法律の一部が改正されたことに伴い、所要の改正を行う。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎神川町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例

福祉に関する法律及び地方公務員の育児休業等に関する法律の一部が改正されたことに伴い、所要の改正を行う。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎神川町過疎対策に伴う町税（固定資産税）の課税の特例に関する条例の一部を改正する条例

過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律施行に伴い、所要の改正を行う。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎埼玉県市町村総合事務組合の規約変更について

市町村合併により組織する地方公共団体の数が減少することに伴い規約を変更するもの。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎彩の国さいたま人づくり広域連合を組織する地方公共団体の数の減少について

市町村合併により組織する地方公共団体の数が減少することに伴い規約を変更するもの。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎埼玉県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の変更について

市町村合併により組織する地方公共団体の数が減少することに伴い規約を変更するもの。

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎本庄地域定住自立圏の形成に関する協定の締結について

本庄市との間において定住自立圏の協定を締結するため。

〈審議結果〉 賛成多数 原案可決

## 予算関係

◎平成二十二年度神川町一般会計補正予算（第一号）

歳入歳出それぞれ九四五万四千円を追加し、総額を四七億七、一四五万四千円とするもの。

○歳入に追加された項目  
国庫支出金 四〇〇万円  
県支出金 二七万三千元

寄附金 二二万円  
繰入金 一九五万一千円  
諸収入 三〇〇万円

○歳出に追加された項目  
〈商工費〉 三〇〇万円  
商工費

〈教育費〉 六二二万三千元  
教育総務費  
中学校費 二二万一千円

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎平成二十二年度神川町国民健康保険特別会計補正予算（第一号）  
事業勘定

歳入歳出それぞれ八九万三千元を追加し、総額を一四億六、〇四九万三千元とするもの。

○歳入に追加された項目  
国庫支出金 七五万五千元  
繰越金 一四三万八千元

○支出に追加された項目  
総務費 三二二万九千元  
老人保健拠出金 一七六万四千元  
保健事業費 四〇〇万円

〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎平成二十二年度神川町介護保険特別会計補正予算（第一号）

歳入歳出それぞれ二一〇万円を追加し、総額を七億八、〇一九万八千円とするもの。

○歳入に追加された項目  
保険料 三九万八千円  
国庫支出金 五四万八千円  
支払基金交付金 六三万円

# 報告など

県支出金 二六万二千元  
 繰入金 二六万二千元  
 ○支出に追加された項目 二二〇万円  
 保険給付費  
 〈審議結果〉 全員賛成 原案可決

◎平成二十一年度神川町一般会計繰越明許費繰越計算書について  
 四億一、四八〇万五千元

◎専決処分の承認を求めることについて  
 (神川町税条例の一部を改正する条例)

◎専決処分の承認を求めることについて  
 (神川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例)

# 陳情

◎建設経済常任委員会

件名 町道の舗装について  
 要旨 町道二二八三号線舗装工事の  
 お願

陳情者 元阿保区長 金澤正明

〈審議結果〉 採択

## 意見書の提出

### 農業農村整備事業関連予算の確保を求める意見書

我が国の農業・農村を巡る情勢は、高齢化等による担い手不足や自給率の低迷等非常に厳しいものがある。このようななか、3月30日に、食料・農業・農村基本計画が策定され、自給率向上、戸別所得補償、6次産業化及び再生可能エネルギーの利用等が推進されることとされ、農業生産基盤については保全管理と整備について、より効果的・効率的に実施することが求められている。

一方、これに対応する農業農村整備事業関連の公共予算は、平成9年のピーク以降順次削減され、平成22年度予算はついにピーク時の17%程度の規模となっている。

食料生産を支える土地改良施設の老朽化や農地基盤の劣化が進行するままに放置されれば、農業生産性は低下するとともに、災害・事故の多発などによる農家の営農意欲の減退など、農業そのものになりたなくなるとともに、食料自給率を益々低下させ、国の安全をも損ねることになる。

埼玉県西北部に位置し、群馬県側と埼玉県側の水争いが絶えなかったところ、農林省の仲裁により古来より存在した堰を昭和29年神流川合口堰に統廃合することで分水問題が解決することとなった本地区についても全く同様である。

昭和55年に国営及び県営事業により、神流川頭首工及び水路を始めとする農業水利施設が整備され、以来受益面積約4,000haの農地を潤してきた。

その後約30年が経過し老朽化が激しくなったことから、平成16年度から平成24年度にかけて頭首工1カ所及び水路32.7kmの改修を行い、現在事業費ベースでの進捗率は約75%となっている。

しかしながら、今般国営かんがい排水事業として農林水産省より要求した要求額に対し、平成22年度予算が大きく削減となったことから、鋭意コスト削減に努めるも施設の計画的な改修ができず、このような状況が続けば予定工期が大きく遅延することは必至である。それに伴い償還計画に狂いが生じるばかりか、漏水や地盤の陥没等不測の事態が生じかねず安定した営農への悪影響が懸念される。特に、減反調整達成に努め首都圏への食料供給を行い、施設園芸を含め優良な営農畑作地帯を有するとともに麦の集団栽培等自給率向上にも大きく貢献する地域でもあることから、基本計画推進の下支えとなる当該事業を計画的に推進する必要がある。

よって、国会及び政府においては、平成22年度の補正予算及び平成23年度予算について農業農村整備事業関連予算を確保し、当該地区が予定工期内に事業完了できるように特段の配慮を強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成二十二年六月十八日

埼玉県児玉郡神川町議会

衆議院議長	様	参議院議長	様
内閣総理大臣	様	財務大臣	様
農林水産大臣	様	内閣官房長官	様
国家戦略担当大臣	様		

# 児玉郡町議会議員前期研修会開かれる

去る七月十六日に、美里町コミュニティセンターに四十名の議員、来賓が集まり、児玉郡町議会議員前期研修会が開かれました。児玉郡町議会議長会主催により、はじめに自治功労者2名が表彰されました。また、講演会では「楯と宇宙船」のテーマで、講師は日本人初の宇宙飛行士の秋山豊寛氏から講演をうけました。秋山氏は、東京都出身で国際基督教大学を卒業後TBSに入社し、平成二年十二月には(旧)ソ連の宇宙飛行士二人とともにソユーズに乗って宇宙に飛び立ちました。日本人として、また、ジャーナリストとして初めて宇宙飛行士になった方です。飛行後はTBS報道局次長、国際ニュースセンター長を歴任され、平成七年にTBSを退社し、現在は福島県で農業を営み、無農薬栽培やシイタケ栽培を実践しています。その傍ら、宇宙での体験、食糧、環境問題などの執筆活動をされています。講演では、宇宙飛行士としての訓練の様子、宇宙での体験談、また現在携わっている農業の話などを通して、夢を持つこと、生きるということの大切さを、数多く伝えていただきました。



前期研修会

## 議会日誌

### 4月



- 1日 全員協議会 教職員人事異動  
辞令交付式
- 5日 丹荘保育所・青柳保育所入園  
式
- 6日 春の交通安全運動キャンペーン
- 8日 神泉小・渡瀬小・青柳小・丹  
荘小・神泉中・神川中入学式
- 9日 神川幼稚園入園式
- 14日 区長会
- 16日 埼玉県市議会議長会総会
- 19日 遺族会総会
- 20日 更正保護女性会総会
- 23日 渡瀬駐在所完成見学会
- 26日 本庄地方拠点都市整備協議会  
監査
- 28日 埼玉県監査委員協議会総会
- 29日 観光協会写真コンクール表彰  
式
- 30日 定例全員協議会
- 7日 新議員町有施設視察
- 9日 神流吟道大会
- 10日 本庄地方暴力排除推進協議会  
監査

### 6月



- 13日 国保運営協議会
- 14日 神川町文化協会総会、本庄法  
人会神川支部総会
- 15日 上武中学校野球神川大会、商  
工会青年部総会
- 16日 埼玉県植樹祭
- 17日 埼玉県道路協会監査
- 18日 全国町村議会議長会議長研修会
- 19日 旧議員倶楽部役員会
- 20日 都道府県議会議長会会長会
- 21日 商工会総会、戦没者追悼式、  
部落解放同盟丹荘支部総会
- 24日 商工会女性部総会
- 25日 議会運営委員会
- 26日 国道462号線期成同盟会監  
査、梨出荷組合総会
- 27日 児玉郡町議会議長会総会
- 28日 社会福祉協議会理事会
- 1日 定例全員協議会、部落解放同  
盟青柳支部総会
- 10日 第3回定例議会(一般質問)
- 13日 植竹大運動会
- 16日 建設経済常任委員会
- 18日 第3回定例議会(補正予算等  
質疑採決)
- 23日 コミュニティ協議会総会
- 24日 旧議員倶楽部総会
- 30日 広域圏定例議会  
埼玉県自治会館役員会